

JIA 東部地区¹のこれまでの歩み

原田 燎太郎
JIA 広州オフィス

JIA が 2004 年に設立されて以来、活動範囲、活動領域、ボランティア数は増加をつづけ、そのため JIA についてその始まりか現在に至るまでを体験している人はほとんどいなくなっています。そこで「JIA 東部地区のこれまでの歩み」と題した文章を書き、関心のある人々と共有したいと思っています。

1. JIA が設立された理由	2
2. JIA の組織の移り変わり	2
2.1. 第 1 期:「Childish Committee」(2004 年 6-9 月).....	2
2.2. 第 2 期:JIA 理事会 (2004 年 9 月-2005 年 3 月).....	5
2.3. 第 3 期:2 オフィス体制(2005 年 4 月-2006 年 11 月).....	9
2.4. 第 4 期:「JIA 理事会+JIA 管理委員会」体制(2006 年 12 月-2008 年 4 月).....	13
2.5. 第 5 期:現状(2008 年 5 月-).....	17

¹ JIA 東部: JIA 広州オフィスがマネージする地域で、広東・広西・湖南・湖北・海南・香港が含まれる。

1. JIA が設立された理由

ワークキャンプは人と人との間にツナガリを呼び起こす力を持っている。人々はそのツナガリを大切にし、それをより深く、より広くしていきたいと願うようになる。その結果、ある人々はワークキャンプをあるひとつのサイトで継続し、その生活・精神・社会的状況を改善していく。またある人々は新たなキャンプサイトを開拓し、その地の人々を新たに巻き込んでいく。こうして、ワークキャンプはそれぞれの地域に根付いてゆき、それらをつなぐことでネットワークを形成していく。この動きを確実なものとするため JIA は 2004 年に設立された。

2. JIA の組織の移り変わり

2.1. 第 1 期:「Childish Committee」(2004 年 6-9 月)

2.1.1. 背景

a. 中国史上初のワークキャンプ

日本と韓国のハンセン病快復村でのワークが減少するにつれ、韓国と日本のキャンパーたちは他の国でワークキャンプを開催することを 1984 年より検討し始める。

1999 年、カン=サンミン(元韓国ピースキャンプ代表、現 JIA 雲南オフィス責任者)は広東省漢達康福協会(HANDA)の楊理合教授の協力の下、広東省清遠市と雲南省でワークキャンプを開催するための下見調査を行った。そして 2001 年、カンの韓国ピースキャンプとフレンズ国際ワークキャンプ(FIWC)関西委員会の柳川義雄は清遠市ヤンカン村(ハンセン病快復村)にて中国史上初のワークキャンプを開催する。

b. 中国からのキャンパーの誕生

2002年ピースキャンプとFIWC関西委員会が第2回ヤンカン村キャンプを開催する。それにFIWC関東委員会の西尾雄志(当時委員長)と原田燎太郎が参加する。ふたりは同年11月、広東省潮州市リンホウ村にてFIWC関東委員会主催のキャンプを開催する。すっかりリンホウ村を気に入った原田は大学卒業直後の2003年4月、リンホウ村にFIWC関東委員会の駐在員として住み込み、中国の大学を回りながら中国の学生をキャンプに巻き込んでいく。

そして2003年8月、ヤンカン村とリンホウ村のキャンプに中国の学生キャンパーが初参加する。広東省広州市と潮州市の大学生たちだ。

c. 中国のキャンパーが主催する初めてのミニキャンプ

ここからが早い。2003 年 10 月には広州のキャンパー・ツァイ=ハン(広東商学院、現在 JIA の OG/OB 会・バックアップチーム理事)と原田によってミニキャンプが開催される(中国のキャンパーが準備した最初のキャンプ)。それに参加したのが後に JIA 理事会の理事となるフォン=ハオインや現在 JIA のプロジェクトマネージャーの G.Y.ワン(共に広東商学院当時大学 1 年)だ。次第にキャンプは中国の人々の間に浸透していく。

d. キャンプサイトの急激な増加

キャンプ地の拡大も中国のキャンパーの手によってなされる。現在 JIA バックアップチーム(OG/OB 会)理事リヤン=ドンビン(暨南大学)は FIWC 関東委員会の吉田亮輔・原田と共に 2003 年 10 月広東省呉川に調査にゆき、地元の湛江師範学院でキャンプ参加者を募集する。ツァイ=ハンと原田は FIWC 関西と共に広西壮族自治区桂林市の村と南寧の広西医科大学を開拓する。2004 年 2 月には呉川と桂林に加え、早稲田大学ボランティアセンターのインストラクターになっていた西尾と中山大学によって広東省茂名市でも初めてのキャンプが開催される。5 月にはフォン=ハオインと原田が雲南へワークキャンプを発展させ、雲南農業大学を巻き込んでいく。

e. 急激な増加が引き起こした問題

こうして中国キャンプは急激に増加する。2001年にひとつしかなかったキャンプ地は2004年8月までに7つとなる。そうなると問題になってくるのが、キャンプを準備する人材の不足、キャンプのプロジェクトを行うための資金の不足、キャンプに関連した情報の不足だ。2004年2月から現れ始めたこれらの問題は同年の夏までに深刻な状況になる。

2.1.2. メンバー

そこで原田燎太郎(当時FIWC関東委員会中国駐在員)は、中国のワークキャンプを円滑に運営していくためのNGOを設立することを考え始める。そのアイデアに乗ったのが、2003年暮れより広州に住み始めたカン=サンミン、学生のツイ=ハン、フォン=ハオイン、G.Y.ワンだ。2004年6月1日(中国のこどもの日)、広東商学院にてキャンプ参加者募集のプレゼンテーションが終わった後、こどもの日にちなんで、NGO設立準備委員会「Childish Committee」を設立する。7月からはツイ=ジエシヤン(韓山師範学院)も加わる。

2.1.3. 仕事内容

Childish Committeeは不定期で、2-3日おきにミーティングを開き、NGOの構想を練る。Childish Committeeの話し合いで決まったことは：

- 設立するNGOは直接ワークキャンプを組織する団体ではなく、中国各地域のキャンパーたちが自立的にキャンプを準備するのをサポートする団体であること。
- この動きを確実にしていくため、中国の各地域に「JIAワークキャンプ地域委員会」を設立し、ひとつの地域にあるいくつかのワークキャンプ団体が相互に協力してその地域にある村々とパートナーシップを結んで活動するようにすること。
- JIAから地域委員会へのサポートの内容は、情報収集と共有、ワークキャンプのコーディネーターを養成するトレーニング開催、国際的にNGOや財団などを結ぶネットワークを構築すること。

このNGOの設立は、各地域のキャンパーと話し合い、その合意の上で行いたい。そこでChildish Committeeは2004年8月、「第1回ワークキャンプの国際ネットワーク会議」をFIWC関東委員会と共に開催し(協賛:日本財団)、広東・広西・雲南にあるワークキャンプ7つと韓国・日本のワークキャンプ団体それぞれの代表を広州に招き、ワークキャンプの急激な発展に伴う「情報・人材・資金」の問題に焦点を合わせてディスカッションを行う。その結論として、各地域の代表たちは「JIAワークキャンプコーディネーションセンター」の設立の必要性を認識するに至り、JIAが設立された。

2.1.4. 問題点

a. トップダウン方式

Childish Committeeはお互いによく知り合ったメンバーで構成されており、会議は頻繁で自由に意見が出され、議論された。第1回ネットワーク会議でのディスカッションのテーマと流れも研究され、ディスカッションの結果は誘導的にJIAの設立へ至るように考えられていた。キャンプが始まったばかりの中国には経験の豊富なキャンパーが少ないため、Childish Committeeは中国キャンプの発展をリードしていかなければならなかったからだ。ワークキャンプのコーディネーションセンターとしてのNGO設立というアイデア、そのNGOの名前-「家JIA, Joy in Action」、理念-“World as One Family by Work Camp”などすべてがChildish Committeeによって考えられた。ほとんどのキャンパーが「“NGO”って何? 非政府? 反政府?」「『そーしゃるわーく』? 何それ?」という状態で、かつ情報・人材・資金が不足しているという状況下、ある程度の強権は仕方なかつ

ただろう。

しかしこのトップダウン方式の下で、次第に形成されていったのが、「JIA はハンセン病快復者をサポートするための組織である」ということだ。JIA がワークキャンプを広めていく上で、JIA はハンセン病快復村以外のキャンプの可能性をキャンパーたちに示してこなかった。そのため、キャンパーたちは自然と「ワークキャンプはハンセン病快復村のためだけのもの」で、「JIA はハンセン病快復者のためのもの」と認識するようになった。

参考: JIA ワークキャンプの定義(2004 年)

ワークキャンプとは、ハンセン病快復村の生活環境を改善するボランティア活動で、トイレの建設や水道設置、家屋建設などを行う。ワークキャンプ中、キャンパーはハンセン病快復村にてハンセン病快復者の村人と 1-3 週間生活を共にし、キャンパーと村人は家族のような個人的関係を築き上げ、非日常的な体験をする。

b. 明確でない理念、戦略、ガバナンス

また、Childish Committee は組織として基本的なこと(理念、戦略、ガバナンスなど)をきちんと決定せず、またそれを明文化しなかった。これが以後、JIA が大きくなるにつれて深刻な問題を引き起こし始め、現在ではそれが顕著になっている。

c. 現在に至るまでの混乱

ワークキャンプ地域委員会の設立というアイデアが JIA のワークキャンプのネットワークを「組織ベース」で考えるように影響している。当時 Childish Committee は「いかにワークキャンプを継続するか」に重点を置きすぎ、地域委員会を運営していくべきキャンパーたちの理解が深まっていないにもかかわらず、まずワークキャンプ地域委員会を設立してしまった。このことが近年いくつかの悪影響を生み出している:

- キャンパーたちは自分たちの所属先がどこなのか明確に理解していない—地域委員会なのか、地域委員会を構成する大学のワークキャンプ団体なのか、それとも JIA なのか。
- 地域委員会を構成する大学のワークキャンプ団体に属していない人は、どれほど活動的であっても JIA のネットワークに参加することができない。
- ワークキャンプは JIA のものなのか、中国国外の協力団体のものなのか、それともキャンパーのものなのか。

2.1.5. 主な出来事

時期	場所	関係者	出来事
2001 年 2 月	ヤンカン村	カン=サンミン、柳川義雄	中国史上初のキャンプ
2002 年 2 月	ヤンカン村	カン=サンミン、ユ=ソンド	中国 2 回目のキャンプ
2002 年 11 月	リンホウ村	原田燎太郎	潮州地区開拓
2003 年 8 月	ヤンカン村、リンホウ村	原田燎太郎	中国のキャンパー誕生
2003 年 10 月	ヤンカン村	ツァイ=ハン	中国のコーディネーターによる初めてのキャンプ
2004 年 2 月	トゥーグアン村、 湛江師範学院	リャン=ドンビン、原田燎太郎、 吉田亮輔	湛江地区開拓
	ピンシャン村	ツァイ=ハン、原田燎太郎	広西壮族自治区開拓
2004 年 6 月	広州	ツァイ=ハン、フォン=ハオイン、 G.Y. ワン、カン=サンミン、 原田燎太郎	Childish Committee 設立
2004 年 8 月	フオシャン村	フォン=ハオイン、原田燎太郎	雲南省開拓

2.2. 第2期:JIA 理事会 (2004年9月-2005年3月)

2.2.1. 背景

JIA の設立後、その設立準備委員会だった Childish Committee は JIA 理事会として 2004 年 9 月に発足し、JIA の意思決定機関と執行機関を兼ねることとなった。

2.2.2. JIA 理事会の設立

2004 年 11 月、JIA 理事会は JIA の会則を制定する。その中で JIA 理事会については以下のよう

に定めている:

第3章 JIA 理事会

第12条 JIA 理事会は JIA とそのすべての活動に対して責任を持つ。

第13条 JIA 理事会は 2004 年 8 月第 1 回ワークキャンプ国際ネットワーク会議を開催したメンバー(中国、韓国、日本)からなる。このメンバーは同会議において、参加者のディスカッションの結論として JIA の設立を宣言した。これらのメンバーは、JIA と中国でのワークキャンプが安定的に運営されるまで暫定的に JIA 理事会を構成する。

第14条 JIA 理事会の機能

- a. JIA のプロジェクトと日常業務に関する意思決定とその執行
- b. 会則の制定と修正、調整
- c. JIA 理事会のメンバーと JIA スタッフの増員: JIA 理事会の 3 分の 2 の賛成によって意思決定がなされる(理事は 11 名以下)
- d. 各地域委員会の活動の最終的な責任をとること
- e. HANDA のワークキャンプ部門としての HANDA との合意を履行すること

2.2.3. メンバー

JIA 理事会の理事は、カン=サンミン、ツァイ=ハン、フォン=ハオイン、G.Y.ワン、ツァイ=ジェシヤン、原田燎太郎と Childish Committee 当時のメンバーに加え、吉田亮輔 (FIWC 関東委員会) とペニー=リー (暨南大学) が新しく入る。

2.2.4. 方針

a. 目的

JIA はハンセン病快復者やその家族を含めた世界がひとつの家族になることを目指す。ワークキャンプを通して、学生、地元の人々や NGO、個人、高齢者などさまざまな背景をもった参加者がひとつの家族のようになり、それはワークキャンプ後もつづいていく。このようなワークキャンプの連続により、世界はひとつの家族となる。

b. 目的を達成する方法

- i. ハンセン病の科学的な知識の普及: ワークキャンプへの参加者を集めるため、JIA はワークキャンプとハンセン病の科学的な知識に関する PR 活動を行う。
- ii. ハンセン病快復村の生活条件の改善: JIA は家屋やトイレの建設、水道設置などの建設をハンセン病快復村で行う。
- iii. 相互に学び合う: キャンパーが 1-3 週間村に滞在する間、キャンパーと村人とはお互いを個人的に知り合うようになり、これまでの人生で体験したことのないことをお互いに学び合う。
- iv. 隔離村を社会に開く: ワークキャンプは人の往来をハンセン病快復村に生む。次第に、社会の人々が快復村を訪れることは自然なこととなる。地域の慈善団体なども村の存在を知り、サポートするようになる。
- v. 人と人とのツナガリ: こうしてワークキャンプはハンセン病快復者、その家族、キャンパーとの間に人と人との間にツナガリを生み出す。
- vi. ハンセン病差別の消滅: 次第にハンセン病への差別は減少し、半隔離の村々は社会

- に開かれていく。
- vii. 継続性: 中国の人々が自立的に活動できるように、彼らがワークキャンプ団体を設立することをサポートする。
 - viii. 中国のすべてのハンセン病快復村をカバーすること: 中国には 625 の村がある。JIA はそれらすべてのハンセン病快復村でワークキャンプを開催する。JIA は快復村の調査を行い、それを様々な団体に紹介し、一つひとつの団体が村に関わり続けるようにする。
 - ix. 自立性: 同時に JIA はキャンパーと村人がお互いに刺激しあい、心理的、社会的、経済的に自立できるようにする。

2.2.5. 仕事内容

JIA 理事会は隔週土曜日 14:00 に JIA オフィス(2004 年 9 月オープン)で開催された。JIA 理事会は意思決定機関と執行機関を兼ねたものだった。

- 原田燎太郎: ジェネラルマネージャー
- カン=サンミン: プロジェクトマネージャー
- フォン=ハオイン: プロジェクトコーディネーター
- G.Y. ワン: インフォメーションマネージャー
- ペニー=リー: 広報マネージャー(2004 年 11 月よりケルビン=フー)
- ツァイ=ハン: 広報アシスタント
- 吉田亮輔: 広報アシスタント(2004 年 11 月よりマイケル=マイ)
- ツァイ=ジェシヤン(会計)

しかし、設立したてで経験の浅い JIA 理事会はこれら上記の仕事をきちんと行うことができなかった。それぞれの仕事は広東・広西・雲南のワークキャンプのマネジメントが主だった:

- 原田燎太郎: 広州地区(2004 年 11 月よりマイケル=マイ)
- カン=サンミン: 雲南地区
- フォン=ハオイン: 広西地区(ハオインは正式な手続きを経ず、JIA 理事会を個人的理由で離れた。しかし、現在に至るまで正式な手続きは確立されていない。G.Y.と原田はハオインを引き継ぎ、2005 年 4 月より原田が桂林地区を、G.Y.が南寧地区を担当)
- G.Y.ワン: 湛江地区(2005 年 4 月よりセブン=シエ)
- 吉田亮輔: 潮汕地区(2004 年 11 月よりツァイ=ジェシヤン)

広州にいる JIA 理事会の各メンバーはそれぞれの地域の情報を収集して JIA 理事会に報告し、ディスカッションを経た後、各地にアドバイスなどをフィードバックした。

ただ、理想的には、各地域がワークキャンプを自立的にマネジメントすることだ。そこで各地域の担当者は「マネージャー」ではなく「連絡係」とする。しかし、各地域のキャンパーたちはまだまだ経験が浅く、事実上、連絡係はそれぞれの地域のマネージャーのようなものだった。そのため、「連絡係」たちはそれぞれの地域のキャンパーたちがワークキャンプや関連するプロジェクト(写真展、プレゼンテーション、ワークショップなど)を行うのを助けることや、共に行うことが仕事だった。

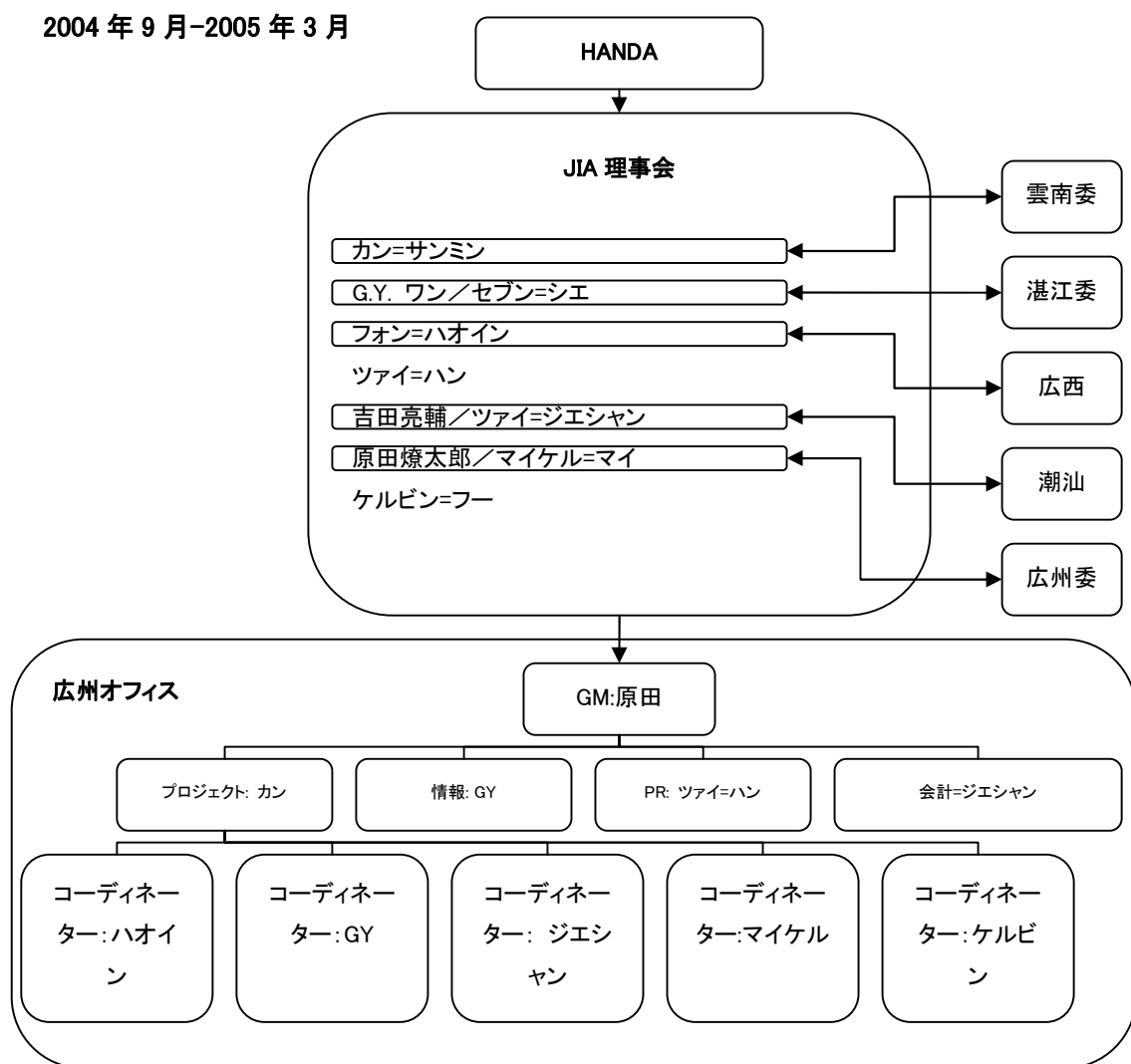
そうではあっても、JIA理事会は各地にワークキャンプ地域委員会を設立して地域の自立的発展を促した。地域委員会とは、その地域にあるいくつかのワークキャンプ団体の協力の場となる。2004年9月にはJIA広州ワークキャンプ地域委員会が設立され、中山大学・広東商学院・暨南大学が加盟する。10月には雲南農業大学を中心としてJIA雲南委員会が設立され、2005年2月には湛江師範学院と広東海洋大学(当時湛江海洋大学)によってJIA湛江委員会が設立される。

またJIAは2004年11月、HANDAのワークキャンプセクションとなる。その理由は：

- a. 設立されたばかりの JIA は政府に NGO 登録することはできないこと
- b. キャンパーたちは活動を開始したばかりで、JIA のネットワーク全体の発展を考えることのできるシステムがまだできていなかったこと
- c. 政府との関係づくりが進んでいないこと
- d. 資金を獲得する方法の見通しも立たないこと

などがあつた。このような問題に直面する JIA にとって、当面は HANDA の庇護の傘の下、徐々に発展することが望ましかつた。HANDA は当時すでに 8 年の歴史を持つ政府に NPO 法人登録した団体だつた。

2.2.6. 組織図



2.2.7. 問題点

JIA 理事会は新しい理事を広州委員会のキャンパーの中から指名した。広州はキャンプの歴史がもっとも長く、他の地域に比べて経験もあつたからだ。また広州にはオフィスがあることも関係している。こうして広州委員会は JIA 理事会と緊密に関わりながら活動し、発展の足を速めた。

こうして広州委員会から JIA 理事会の理事が選ばれるという循環が生まれた。広州のみが発

展し、他の地域のリーダー的存在になることが懸念されるが、もうひとつの思惑としては、広州でまず発展のモデルをつくり、それを他の地域に徐々に広げていこうということもある。

JIAの会則はJIAは意思決定機関と執行機関を兼ねるとしているが、執行機関はうまく機能しなかった。その理由は：

- a. 無償でフルタイムスタッフをする人材の不足
- b. 原田以外の、無償のスタッフはビジネスや学業などに携わっていたこと
- c. メンバーは意思決定と執行を重複して担当していたため、チェック&バランスの機能が働かなかったこと

2.2.8. 主な出来事

時期	場所	関係者	出来事
2004年9月	広州	広州のキャンパーとJIA理事会	JIA 広州ワークキャンプ地域委員会設立
2004年10月	昆明	昆明のキャンパーとJIA理事会	JIA 雲南ワークキャンプ地域委員会設立
2004年11月	広州	HANDA、JIA理事会	JIA が HANDA のワークキャンプ部門となる合意
2004年12月	広州	JIA理事会	第1回ワークキャンプのコーディネーター要請トレーニング
2005年2月	湛江	湛江のキャンパーとJIA理事会	JIA 湛江ワークキャンプ地域委員会設立

2.3. 第3期:2オフィス体制(2005年4月-2006年11月)

2.3.1. 背景

JIA理事会は2004年12月、中国のコーディネーターを養成するためのワークショップを広州オフィスで開催する。その効果もあり、2005年2月のキャンプはほぼすべて中国のコーディネーターによって準備された。発展を始めたJIAに対して笹川記念保健協力財団は2005年4月よりオフィス運営費の支援を開始し、JIAは広州オフィスに加えて雲南省昆明オフィスを開設する。雲南省担当のカン=サンミンは2005年4月、昆明オフィスに移る。

2.3.2. メンバー

2オフィス体制になってからもJIA理事会の理事は大きくは変わらない。カン=サンミン、ツァイ=ハン、G.Y.ワン、ツァイ=ジエシヤン、原田燎太郎、マイケル=マイ(暨南大学)、セブン=シエ(中山大学)だ。フォン=ハオインは理事を辞し、あるワークキャンプのコーディネーターとなる。ケルピンは卒業・就職し、後輩のセブンが理事となる。また理事会の開催は1ヶ月に1度となる。

2.3.3. 方針

2005年3月、JIA理事会は広州近郊の三水で理事会を開催し、JIAの組織について再建とする。

a. JIAとは何か

JIAは中国のNGOで、ワークキャンプのネットワークであり、そのネットワーク内のキャンパーと協力する。

b. 目的

JIAが目指すことは:

- i. ボランティアリズムを普及させること
- ii. 地元のキャンパーがワークキャンプをその地域に根付かせ、発展させてゆき、“Joy in Action”を備えた市民社会の基礎とすること
- iii. 社会問題が存在せず、「世界をひとつの家族」にすることができるワークキャンプのグローバルネットワークを構築すること

c. 発展モデル

JIAはボランティアリズムを中国に普及させる独自の方法を発展させており、それによってワークキャンプのグローバルネットワークを構築することができる。これは「JIAモデル」と呼ばれている。

i. 「ボランティアリズム」—ワークキャンプ

ワークキャンプにおいては、リーダーたちを含めたほとんどの人々がボランティアであり、すべての人々は平等で、さまざまなプロジェクトに関する意見を表明し、意思決定をし、実行する過程に携わることができる。このような環境を通して、キャンパーたちはボランティアについて学び、理解することができる。そしてキャンパーとキャンプ地の住民は互いに団結し、個人的な関係とツナガリを築き上げていく。

ii. 「継続性」—ワークキャンプ団体

ワークキャンプで得たボランティアリズムと個人的なツナガリのため、キャンパーたちは活動の継続性の重要性を認識するようになる。JIAは彼らと協力してワークキャンプ団体を彼らの地域に設立する(ほとんどの場合彼らの大学内に設立する)。

iii. 「協力」—JIA ワークキャンプ地域委員会

ある地域のいくつかのワークキャンプ団体はJIAと協力してJIA ワークキャンプ地域委員会を設立する。地域委員会はワークキャンプ団体間の協力の場となり、調査やキャンパー募集、トレーニング、中国外の協力団体との連絡、プロジェクトの実施から評価までのワークキャンプの開催に必要な仕事を共同で行う。

これらの過程のノウハウは、世代から世代へと受け継がれていく。

iv. 「刺激しあい、洗練しあう」—中国国内ネットワーク

地域委員会は国内ネットワークを形成する最小単位となり、それぞれの地域委員会はプロジェクトを「キャンプ文化」といわれるその地に独特の方法で発展させていく。国内ネットワークを通し、各地域委員会はキャンプ文化を共有し、また自らの文化を磨き上げていく。この相互刺激は競争ではなく、相互にさらに発展させていく。

v. 「意思決定過程への参与性」(JMC)

JIA の意思決定は JIA 理事会にてなされるが、各地域委員会の情報の収集は年 4 回の JIA 管理委員会(JMC, JIA Management Committee)にてなされる。JMC の構成は、JIA 理事会(3名)と各地域委員会の代表それぞれ 1 名ずつ (6名)(広州、湛江、潮汕、南寧、桂林、昆明)合計 9 名だ。JMC ではそれぞれの地域委員会の現状や JIA の発展の方向性についてディスカッションが行われる。

vi. 「グローバルネットワーク」—JIA ネットワークカンファレンス

このようにして国内ネットワークが構築されている。そして JIA は中国国外からのキャンパーと協力し、その他の国や地域でも JIA モデルによってネットワークを形成する。すべての国々のキャンパーたちは、ワークキャンプ中だけでなく、JIA ネットワークカンファレンスにおいても出会うことができる。こうして次第にグローバルネットワークが構築されていく。

d. 活動分野

JIA のワークキャンプは 2001 年以来、中国のハンセン病快復村に焦点を当ててきた。JIA のキャンパーたちが必要であるとみなせば、将来的には教育、障害者、環境保全、文化交流などの分野でも活動していく。

e. 機能

JIA は下記の点でキャンパーと協力していく:

- i. 情報センター: 中国のワークキャンプの情報の収集と共有
- ii. トレーニングセンター: キャンパーたちへのトレーニング
- iii. ネットワークセンター: ワークキャンプのグローバルネットワークの構築

2.3.4. 仕事内容

ふたつのオフィスのもと、徐々に各地の地域委員会が育っていく。この間、地域委員会はかなりの程度自立的にワークキャンプを運営していくことができるようになる。JIA 理事会はかつてのように「各地域のマネージャー」ではなく、本来目指していた「JIA 理事会と各地域の連絡係」となってくる。

こうして余裕のできた JIA 理事会はチャリティーライブなどの PR 活動を通じて他の NGO や財団(イェール=中国協会、グリーンピース、ロックフェラー兄弟財団、グリーングラント基金、オックスファム香港)と交流を深めていく。

また新しくプロジェクトマネージャーとなった G.Y. と若い彼を支えるカン=サンミンは「JIA ボランティアチーム=ネットワーク」を提起する。これは、自立的に活動できるようになってきた各地域委員会にそれぞれ法律チーム、ケアチーム、聞き書きチーム、バックアップチーム(OG/OB 会)、プロジェクト発展チームを設立し、国内にそれぞれのチームのネットワークをつくりあげ、同時に弁護士、医師、研究者など専門家によるコンサルタントチームをつくり、ボランティアチームと緊密に協力しながら村々の問題を解決していくというものだ。

こうして次第に、ワークキャンプ本体は各地域委員会によって組織され、それ以外の広報や資金集め、JIA のネットワークを使ったプロジェクトの発展などは JIA によって生み出されるという形ができてきた。

2.3.5. 問題点

a. 年度計画決定プロセス—キャンパー不在の議論

JIA へのスポンサーが増えてくるに従い、JIA は年度計画をより綿密に作成する必要がでてきた。その計画には当然、各地域委員会の計画が含まれる。しかし、各地域委員会が向こう一年の計画を立てるのは非常に難しかった。というのも各地域委員会のメンバーは流動性が高いからだ。そのため、JIA 理事会は地域委員会のキャンパーたちを巻き込みつつ年度計画を決定するよい方法を見つけることができなかった。

しかし、計画を提出しなければ資金がない。そこで JIA 理事会は各地域委員会の年度計画を推測し、JIA の年度計画に含めて財団に要請書を提出した。財団での審査に通ったプロジェクトのうちいくつかは、地域委員会が実施できず、資源を有効利用することができなかった。資源が負担となってしまった。

b. 広州委員会の弱体化とその他の地域の意見吸収の困難

2005年8月第2回ネットワーク会議にて、JIA理事会理事のうち大学卒業を控えた理事の後任候補が発表される。セブンの後輩のイエ=ユエンヤン(中山大学)、マイケルの後輩のトニー=チェン(暨南大学)、JIAバックアップチーム(OG/OB会)をつくっていくツァイ=ハンの後任のアヤ=スー、JIA広州委員会に新たに加盟した広東工業大学のチェン=ミンジューだ。

ところが、トニーとミンジューはJIA理事会の会議にほとんど参加しない。JIA広州委員会からJIA理事会の理事を選ぶ現行のシステムは現在の状況に即していないことが露呈した。というのも、トニーやミンジューはJIA広州委員会の重要なコーディネーターでもあり、広州委員会とJIA理事会の仕事を両立することができないのだ。そもそも彼らには学業があるので、両立どころか「三立」となってしまう。ユエンヤンやアヤは広州委員会の仕事よりもJIA理事会の仕事を多くこなすが、彼らももともとは広州委員会のワークキャンプコーディネーターだ。

こうして最も活動的なコーディネーターをJIA理事会に吸い上げられる形となったJIA広州委員会は弱体化していく。広州委員会の会議はいたずらに長引き、キャンプ開催などの重要な決定が遅れるため、キャンプの準備をなかなか始められず、結果としてキャンプの質が低下する。質の低いキャンプからは優れたコーディネーターが出てこない。完全に悪循環に陥る。

一方、広州以外の地域からは、「うちの地域からもJIA理事会のメンバーを出したい」「JIA理事会とうちの地域は距離がありすぎる」という声上がり始める。他の地域のキャンパーたちも着実に発展していていることの証明ともいえるが、解決しなければいけない問題だ。

c. ふたつのオフィス間のコミュニケーション

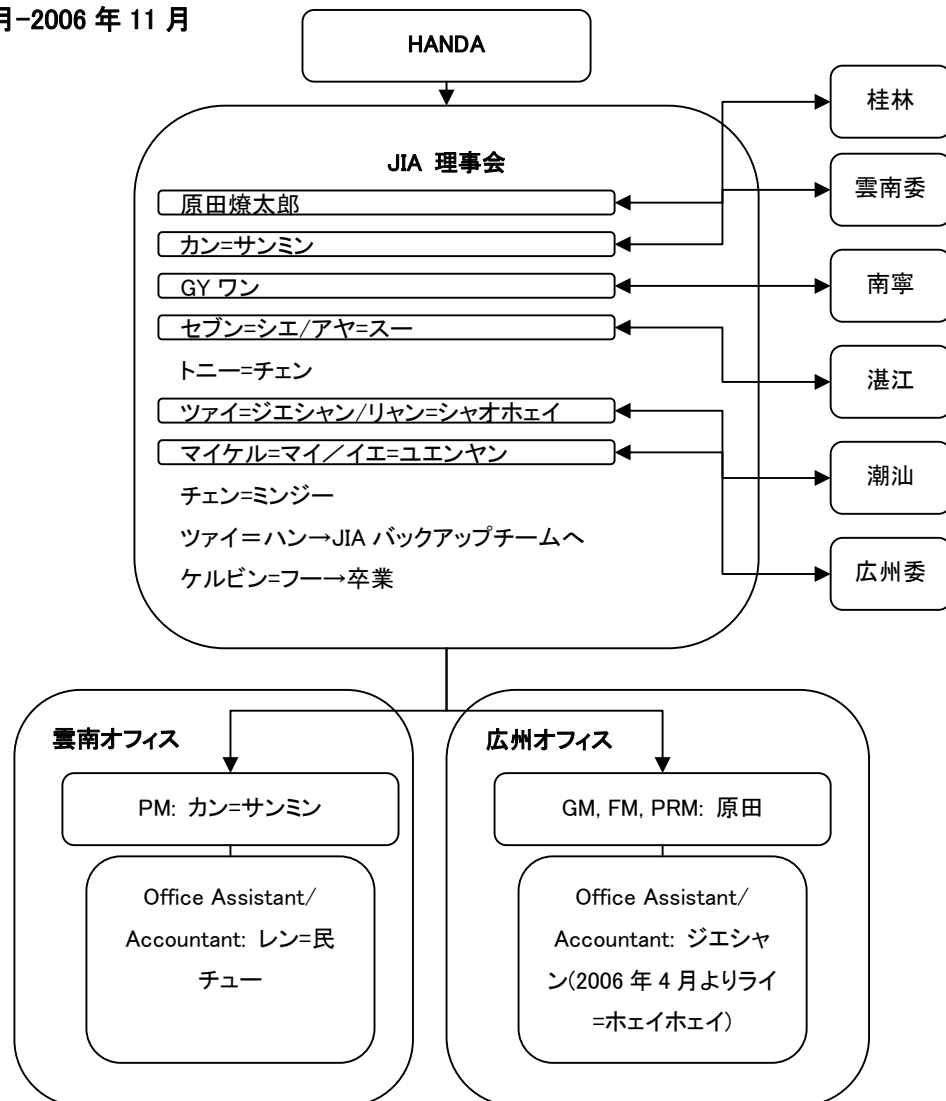
地理的な状況や人的資源、資金の不足などが原因して、ふたつのオフィスの間のコミュニケーションは非常に難しかった。この問題は意思決定過程を遅らせ、プロジェクトを有効かつ効率的に行うことを妨げた。実際のところ、JIA 理事会がふたつ目のオフィスを昆明に開設する以前に広州オフィスのシステムは対内的にも対外的にも安定的ではなかった。ふたつの不完全なコーディネーションセンターのもと発展することになった JIA のネットワークは、全体の安定を目指すうえで困難を抱えた。

d. ボランティアチームネットワーク

この発案は非常にトップダウン的なもので、各地域委員会のキャンパーの理解を得ぬまま進められたため、失敗に終わった。しかし、そのネットワークの失敗を補完する対策は採られず、またその失敗に関する報告も JIA オフィスからなされることはなかった。

2.3.6. 組織図

2005年4月-2006年11月



2.3.7. 主な出来事

時期	場所	関係者	出来事
2005年4月	昆明	JIA 理事会	雲南オフィス開設
	広州、昆明	JIA 理事会	初のオフィシャルスタッフ誕生(広州:ジエシヤン、昆明:ミャオ=グイユン)
2005年5月	昆明	JIA 理事会	第2回ワークキャンプのコーディネーター要請トレーニング
2005年6月	広州	広州委員会	組織的なコーディネーター要請プロジェクト「ブレッドプラン」開始
2006年7月	広州	広州オフィス	ロックフェラー兄弟財団(アメリカ)による助成(同年ネットワーク会議)
	湖南	広州オフィス、広州委員会	湖南開拓
2006年8月	桂林	JIA 理事会	第3回ネットワーク会議(ボランティアチーム ネットワーク設立)

2.4. 第4期:「JIA 理事会+JIA 管理委員会」体制(2006年12月-2008年4月)

2.4.1. 背景

2.4.1.1. HANDA からの独立

JIA 理事会のシステムが現状に適していなかったそのころ、JIA が HANDA のワークキャンプ部門であることも難しくなっていた。その原因は:

- a. 組織の形態の違い:HANDA はハンセン病快復者ベースの組織である一方、JIA はボランティアベースであること
- b. JIA の活動地域が HANDA よりも大きくなったため、HANDA が JIA の責任を負うことができなくなったこと
- c. JIA の活動分野はハンセン病以外にまで拡大したが、HANDA はハンセン病に限られているということ
- d. HANDA のような医療系 NGO は中国国内で活動地域が細かく線引きされており、JIA が「HANDA」の名前を使って活動する場合、線引きに影響されて活動地域が限られてしまうこと

そのため、JIA は HANDA から 2006 年 12 月独立した。その後 JIA は 2007 年 3 月、香港で NPO 法人登録に成功した。

2.4.1.2. JIA 広西オフィス

JIA 広西オフィスが 2007 年 1 月に南寧に開設された。その理由は:

- a. 広西の 3 つの地区(南寧、桂林、河池)の発展を確実なものとする
- b. 広東と雲南の間に位置するという地理的な特性を活かし、キャンパーの間でのコミュニケーションを促進すること
- c. ベトナムへの交通が開けているため、将来の東南アジア進出への足がかりとすること

しかし、JIA は資金や人的資源の不足に陥り、2007 年 9 月広西オフィスは閉鎖された。

2.4.2. JIA 理事会の変化—理事会+JIA 管理委員会

JIA 理事会が変化した。JIA 理事会の理事は各オフィスの責任者 3 名—G.Y.ワン: 広州オフィス;カン=サンミン: 雲南オフィス;原田燎太郎: 広西オフィスとなった。そしてそれとは別に JIA 管理委員会(JMC, JIA Management Committee)という委員会が設けられた。JIA 管理委員会は JIA 理事会の理事 3 名と各地域の代表 6 名—広東省広州: ジャン=シャンミン(中山大学); 湛江: リョウウ=ソンリン(広東海洋大学); 潮州: ジャン=ロウ(韓山師範学院); 広西壮族自治区南寧: ルー=ミン(広西医科大学); 桂林: シュー=シャオリン(桂林医学院); 雲南省: ゾン=ティンメイ(雲南大学)、合計で 9 名からなる。

2.4.3. 仕事内容

JIA 理事会は意思決定機関で、JIA 管理委員会は JIA 理事会の理事が各地域委員会の現状を知り、地域委員会の意見を JIA 理事会の意思決定に反映させる目的で設立された。こうして JIA 理事会は、長期にわたって JIA オフィスで働く安定的なメンバーによる意思決定を確保することができる。また広州委員会の弱体化にも歯止めをかけ、また広州以外の地域の参与も確保することができる。

2.4.4. 問題点

しかし実際はこの時期、JIA 理事会と JIA 管理委員会、JIA オフィスは何もかもがうまくいかなかった。JIA 理事会は定期的開催されず、議事録も作成しなかった。JIA 管理委員会のほとんどの委員は JIA 管理委員会の機能を理解しておらず、それはただの報告の場と化した。JIA 理事会はまた現実的で安定的に地域委員会を意思決定プロセスに巻き込む術を知らなかった。また JIA 管理委員会の委員となっている代表がその地域の意見を性格に代表しているか否かにも確信がもてなかった。

JIA オフィスの問題でいえば、雲南オフィスは JIA を雲南省政府に NPO 法人登録することに集中し、雲南委員会のマネージメントがおろそかになった。その上 NPO 法人登録は失敗に終わった。広州オフィスは、プロジェクトの重要な機能が集中する雲南オフィスとのコミュニケーションがうまくいかず、プロジェクトを進める上で困難を抱えた。そのため、広州オフィスはこの状況を打開するためのディスカッションに多大な時間を割くことになり、仕事に集中することができなかった。

またボランティアチームネットワークは、多くの地域のコミュニケーションチームと広州のバックアップチーム以外、ほとんどが機能しなかった。機能しないまま各地域委員会に存在し続けたこのチームネットワークはそれぞれの地域に悩みの種をまいただけに終わり、また地域委員会の発展を阻害する要素にさえなった。現在に至るまでこのチームネットワークはキャンセルされたのか否かも明確ではない。

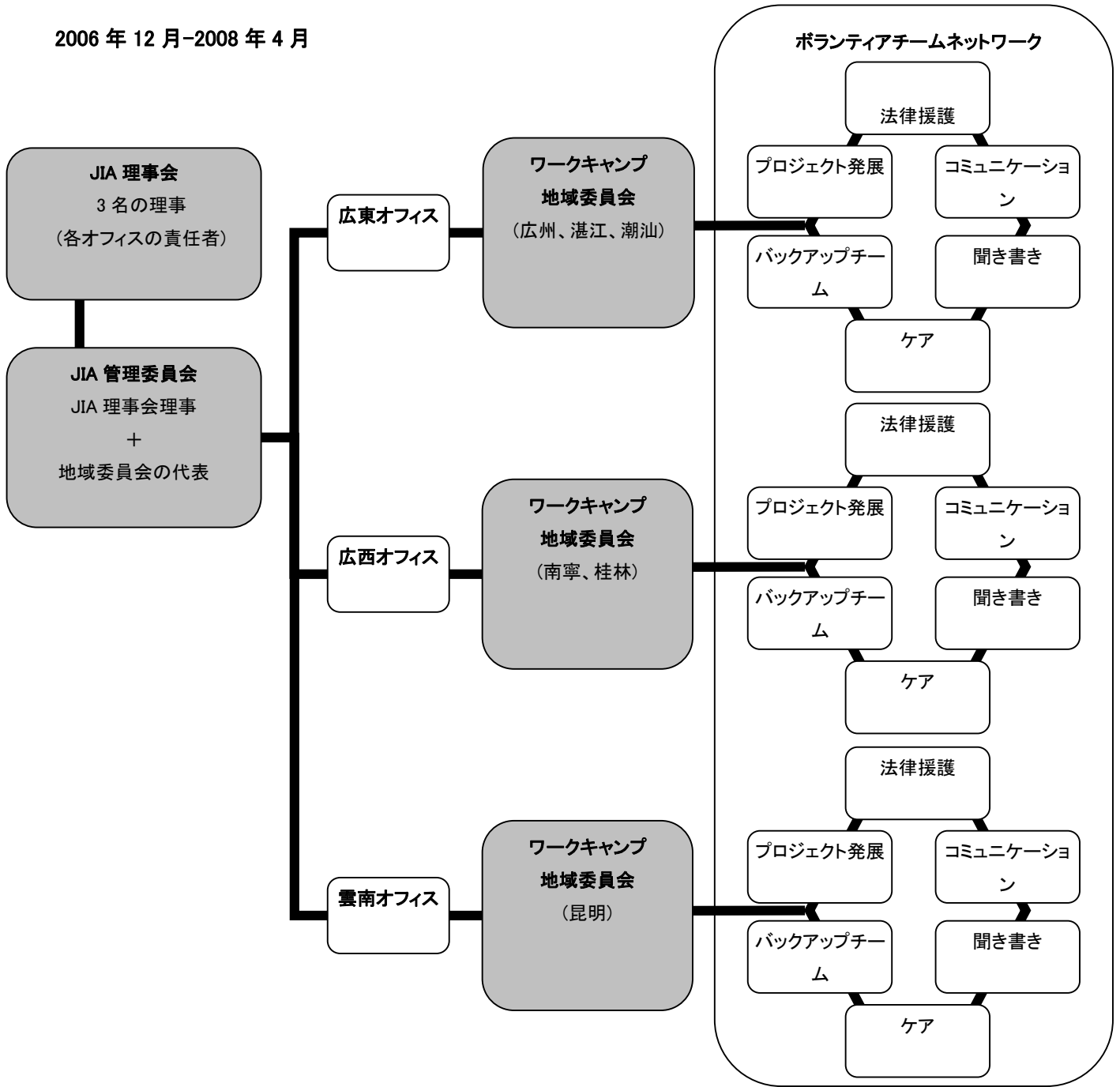
この時期は JIA ワークキャンプコーディネーションセンターにとって退化となった。

その一方、各地域委員会は発展を遂げた。JIA は本来ならば JIA が行うべきであったトレーニングワークショップなどのプロジェクトを地域委員会に任せ、ほとんど干渉することがなかった。そのため、地域委員会が行うプロジェクトの質はそれほど高くはなく、また JIA オフィスがそれをコントロールすることもできなかった。しかし現在、各地域委員会は自らのアイデアによって自分たちは自分たちで発展するべきで、かつそれが可能であることを認識している。

しかし、JIA 理事会は意思決定プロセスに地域委員会を巻き込むことに現在までも引き続き失敗している。それどころか、JIA 理事会は自らの年度計画すらきちんと制定することができず、各地域委員会に困惑を与えている。

2.4.5. 組織図

2006年12月-2008年4月



2.4.6. 主な出来事

時期	場所	関係者	出来事
2006年12月	広州	JIA 理事会、HANDA	JIA が HANDA より独立
	広州	JIA 理事会	JIA 管理委員会設立
2007年1月	南寧	JIA 理事会	広西オフィス開設
2007年6月	南寧	広西オフィス	ロックフェラー兄弟財団との2年契約開始
	広州、 昆明	広州オフィス、雲南オフィス	Yale-China 協会とのインターンシッププログラム開始
2007年5月	南寧	南寧のキャンパー	南寧委員会設立
2007年9月	南寧	JIA 理事会	広西オフィス閉鎖
	湖北	湖北のキャンパー	湖北省ワークキャンプ団体設立
2008年3月	海南	JIA 広州オフィス、広州委員会	海南開拓

2.5. 第5期:現状(2008年5月-)

2.5.1. 背景

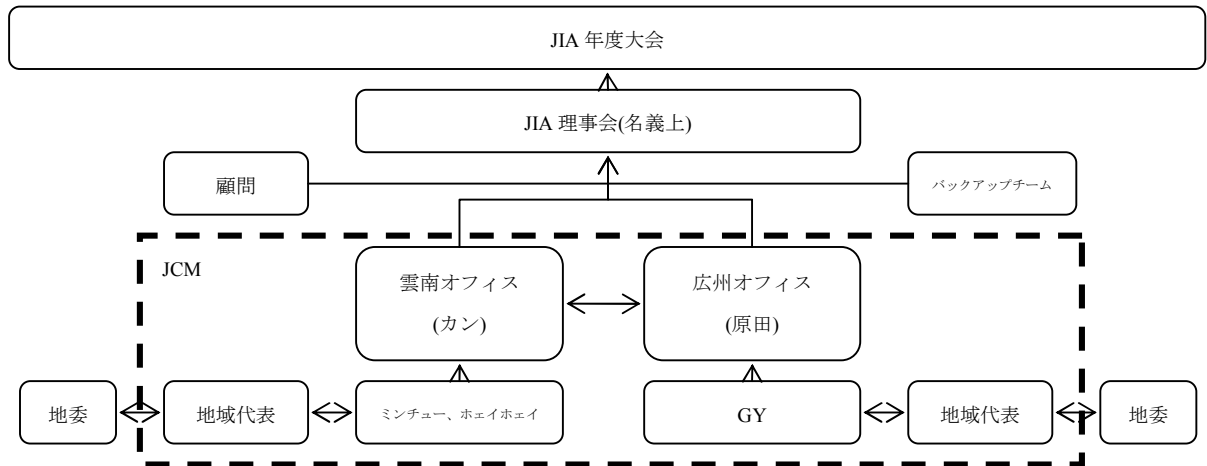
第4期のコーディネーションセンターとしての JIA の危機を受けて、JIA 理事会は 2008 年 5 月昆明にてミーティングを開き、組織を変更した。

2.5.2. 責任と分業

責任	総責任者	東部	西部
財政	原田	原田	カン
プロジェクト	カン	原田	カン
オフィスマネジメント	-	原田	カン
エリアコーディネーター	-	G.Y. (広東/広西/湖南/湖北/海南/香港)	ミンチュー、ホエイホエイ (雲南/四川/貴州)
オフィスアシスタント	-	チェン=ユエ	ミンチュー
情報	カン	ニュースレター: G.Y. データベース: チェン=ユエ メルマガ: 原田	ニュースレター: ホエイホエイ ウェブサイト: ミンチュー
会計	-	チェン=ボン	ミンチュー
出納	-	チェン=ユエ	-

- a. オフィスマネージャー: オフィスがカバーするすべての地域のプロジェクト、行政、財政、PR への責任。ふたつのオフィスのマネージャーは定期的にコミュニケーションをとる。
- b. プロジェクトマネージャー: JIA のすべてのプロジェクトへの責任。年度計画を作成し、JIA コーディネーション会議(JCM, JIA Coordination Meeting, 実質上の意思決定機関)に提出する。JCM が承認した後は、エリアコーディネーターをオフィスごとに管理し、報告を JCM に提出する。
- c. エリアコーディネーター: 担当する地域の年度計画の作成; オフィスマネージャーを通してプロジェクトマネージャーへ計画を提出; 各地域の計画の実施をサポート; 月末にオフィスマネージャーへ報告
- d. ファイナンシャルマネージャー: JIA の財政のすべての責任を負う。年度予算を作成し、JCM に提出。JCM が承認した後は、計画通りに資金を獲得し財政を管理し、説明責任と透明性を確保する。毎回の JCM への報告。
- e. 会計: 会計の記録; ファイナンシャルマネージャーへの会計報告の提出
- f. インフォメーションマネージャー: ニュースレター、データベース、ウェブサイト、メルマガ
- g. オフィスアシスタント: オフィスのマネージメント

2.5.3. 組織図



2.5.3.1. JIA 年度大会

- a. JIA 理事会と理事会提出の年度計画の承認
- b. JIA ネットワーク内のステークホルダーの計画間のコーディネーション

2.5.3.2. JIA 理事会(名義上の意思決定機関)

- a. JCM の提出する年度計画の承認

2.5.3.3. JIA コーディネーションミーティング

- a. 実質上の意思決定機関
- b. メンバー：3月の年度計画制定 JCM: G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)(その他の時期の JCM には地域委員会の代表が含まれる)。
- c. 開催時期、参加者、機能:

時期	メンバー	機能
3月初旬	G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)	年度報告と年度計画の承認
4月初旬	G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)	報告、交流、評価
	G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)、各地域委員会の代表	報告、交流、評価
	G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)	意思決定
8月(年度大会前)	G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)	報告、交流、評価
	G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)、各地域委員会の代表	報告、交流、評価
	G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)	意思決定
12月中旬	G.Y.、原田、ホエイホエイ、ミンチュエ、カン、(記録: チェン=ユエ)	報告、交流、評価

2.5.4. 問題点

2.5.4.1. 不明確な方向性

組織の根幹をなす明文化されたコアバリューがない。コアバリューが明確でかつそれが組織内

のすべてのステークホルダーの間に浸透している場合、組織は正確に意思決定を行うことができる。しかし、JIA にはそれがないため、下記のような問題が起きている：

- a. JIA とは何か—ネットワークの名称？ JIA オフィス？ それとも？
- b. JIA はボランティアにサービスを提供する団体なのか、それともハンセン病快復者や小学校の児童へか？
- c. JIA はハンセン病快復村にだけ集中すべきか？ 小学校でもキャンプを開催すべきか？
- d. JIA は現在、その発展段階においてどの位置にまでたどり着いているのか？

など。

2.5.4.2. 不明確な責任と分業

不明確な方向性は責任と分業のあいまいさをも生んでいる：

- a. ジェネラルマネージャーが不在で、組織の最高責任が不明。
- b. ふたつのオフィスの関係が不明。
- c. オフィスと各地域委員会との関係も不明。
- d. それぞれのスタッフがどのプロジェクトを担当するかも不明。
- e. 組織内でバックアップチーム(OG/OB 会)がどこに位置するのも不明。
- f. スタッフのポジションやシステムにはしばしば変更が加えられ、そのために JIA オフィスの仕事は不安定で、プロジェクトにも甚大な影響が出ている。

など。

2.5.4.3. キャンパーたちを意思決定過程に巻き込むこと

JIA は 2004 年の設立以来、キャンパーたちを JIA の意思決定過程に巻き込むことに失敗し続けている。2004 年よりキャンパーたちはそれぞれの地域にて発展をつづけ、2006-2007 年ごろまでには各地のキャンパーたちはそれぞれの地域委員会を運営できるようになっている。そのため、現在は彼らを JIA の意思決定に巻き込むことは可能になっている。しかし、JIA はまだそれができてない。キャンパーたちは最近、JIA オフィスと協力する上で困難を感じ始めている。というのも各地域委員会は彼らの年度計画を持っているため、JIA が突発的にプロジェクトを行うと計画が重複したりなど問題が起こるからだ。

2.5.4.4. 人的資源管理における危機

JIA に人的資源管理という概念はなかった。そのため、JIA はスタッフやインターン、キャンパーたちを傷つけてきた。改善すべき点は無数にあるが、代表的なものでは：

- a. どのようにすれば JIA のスタッフ/インターン/キャンパーになることができるのかを明確に提示すること。
- b. スタッフやインターンの待遇はどのようにして決定されるのかを明確にすること。
- c. スタッフ/インターン/キャンパーに対する必要なトレーニングを組織すること。
- d. スタッフ/インターン/キャンパーは JIA で活動することによってどのような益をえることができるのかを明確にすること。

など。



文責：原田燎太郎

2008/09/29

日付

加筆修正：G.Y.ワン

日付

ご意見ご質問は下記まで:

日本語、英語、中国語:

原田 燎太郎

JIA 広州オフィスマネージャー

tynoon@gmail.com

+86 159 89 15 42 21 (携帯)

+86(0)20 34 02 56 67 (オフィス:9:00-18:00)

中国語、英語:

G.Y.ワン

JIA 広州オフィスエリアコーディネーター

joyinaction_G.Y.@yahoo.com.cn

+86 137 51 88 99 91 (携帯)

+86(0)20 34 02 56 67 (オフィス:9:00-18:00)

HARADA Ryotaro reserves the right of interpretation of this document.